

# 令和5年度「調査の匠<sup>★</sup>」認定

技術委員会 編集表彰部会

## 1. 「調査の匠」認定制度について

(一社) 関東地質調査業協会では、平成30年から、以下を目的とし「調査の匠」認定制度を創設しました。

- ①地質調査に関わる技能者および地質調査業の社会的地位向上を図る。
- ②若手技能者が誇りを持ち、地質調査業に関わる技能者になろうとする社会基盤を築く。
- ③若手の育成を含め、地質調査業の技術の傳承を図る。
- ④地質調査に関わる技能者が、やりがいを見出せる基盤を構築する。
- ⑤地質調査業界が優秀な技術を有し、社会に対する貢献度が高いことを広報する。

過去の受賞者は表1のとおりです。

表1 過去の受賞者一覧

年度	氏名	会社名
平成30年度	中山 栄樹	応用地質(株)
	菊永 満	(有)菊永ボーリング
	青砥 聡	千葉エンジニアリング(株)
令和元年度	畠山 秀喜	応用地質(株)
	川島 光夫	川島ボーリング
令和2年度	若杉 護	基礎地盤コンサルタンツ(株)
	神 薫	応用地質(株)
令和3年度	吉田 潔	川崎地質(株)
	高橋 一成	千葉エンジニアリング(株)
	山本 正治	(株)ヤマモトジオサーブ
令和4年度	米森 博喜	応用計測サービス(株)
	木内 浩二	中央開発(株)

認定の対象者は、地質調査業務に関わり「調査の匠」としてふさわしい実務経験を有し、他の技能者の模範と認められ、後進の指導にあたっている技能者(ボーリング、原位置試験、物理探査、室内試験、現地計測など)です。

「調査の匠」に認定された方には、協会員企業に属する同種の技能者に対し、必要に応じて技術を傳承する講習会等で講師を務めていただくこともあります。また、本制度の将来構想は、「調査の

匠」ならではのノウハウをデータ化し、共有できる知見・知識として明文化・仕組化する事で形式知に置き換え、匠技術の再現を組織的に継承することです。

## 2. 今年度の「調査の匠」認定者

令和5年度「調査の匠」として、下記の2名の方が認定されました。おめでとうございます。

今後の益々のご活躍と、後進への技術指導および継承を期待しています。

なお、令和5年6月19日(月)に開催した第2回関東協会技術フォーラムにて、調査機器の開発経緯やその実施状況についての講演を伊藤氏にして頂きました。

### ○ 伊藤 義行氏 応用地質(株)

#### 【認定要件】

原位置試験(海上用孔内水平載荷試験機(マリンLLT)、高出力水圧式サンプラー、セルフボーリングLLT(SBLLT)、遊星歯車を備えたコアサンプラー(プラネットサンプラー)、単孔式多段間隙水圧計(MP SYSTEM))において、創意工夫や品質確保に優れた実績を有しており、通常業務に従事する傍ら、ニーズに合致した計測を追求・開発まで積極的に取り組んでこられました。

### ○ 藤川 輝彦氏 (株)東京ソイルリサーチ

#### 【認定要件】

地質調査の基本となるボーリング調査の機長を、家業を継いでの個人事業主あるいは地質調査会社の社員として30年以上経験され、その間には特に良質なボーリングコア採取に対して、様々な創意工夫や新しい技術の導入を実践されました。また、難易度の高い現場にも積極的に対応されると共に、品質面・安全面で優れた実績を残し、現場調査技術の向上に貢献してこられました。現在では、後継技術者の育成・指導にも積極的に注力されています。

### 3. 「調査の匠」に認定されて

#### ○ 伊藤 義行氏 応用地質（株）

この度は、「調査の匠」として認定いただき、誠にありがとうございます。思えば、35年前に機械工学科を卒業した自分が地質調査業という畑違いとも思える業種に入社したのが私のキ



ャリアの始まりでした。会社内の最初の配属は、当然機器開発や製造する部門と思っていたのが、なぜか土質調査という部門に配属され何もわからない状態で非常に困惑したのを今でも覚えております。しかし、この配属が後々の機器開発や現場計測に大きな影響を与えることになり、今では非常に良い経験だったと思っております。土質調査を実施していた時期は、ウォーターフロント開発が盛んな時期で、過酷な海上の現場でボーリングオペレーターと苦楽を共にしました。この時に、マリンLLTという海底下に堆積する超軟弱地盤に適用できる孔内水平載荷試験装置の開発に携わったのが、私の機器開発業務の始まりでした。また、いかに新しい機器を現場のボーリングオペレーターに指示して実施してもらうかなど、現場での立ち振る舞いについても深く勉強させていただき、職人肌のボーリングオペレーターとの付き合い方も上手にこなせるようになったように思います。

その後、機器開発を専門に行うようになり、機器仕様の検討・設計・製作・現場試用といった一連の作業を行い、土質調査時代の現場経験を生かしたモノづくりを実践してきました。特に新しい機器を現場へ投入するときは、ボーリングオペレーターと議論しながら自分でも実践し、良いものを皆で協力して作り上げることの大切さを学び、達成感というものをも十分に味わうようになりました。これらの作業では、自分が動かないとボーリングオペレーターも協力的になってくれないというのが良くわかりました。指示をして見ているだけでなく、実践することで、現場の皆で課題や問題点を共有でき、改良や改善がスムーズになることを学ばせていただきました。

これらの実績を積むことにより、難しい現場計測や特殊な計測機器の設置などを任されるように

なり、多くの課題のある業務を創意工夫することで成功させることができました。課題の克服では、自分だけでなく諸先輩方や同僚の意見に耳を傾け、その中の良いと思われる部分を抽出することが大切です。また、現場では常に問題意識を持って作業を見ることも大切です。問題意識を持たないで、ただ見ているだけではいろいろな工夫点も記憶に残らないからです。「なぜそのようにするのか」という問題意識を持っていると、自然と質問もするようになり、相手も自分の専門領域のことは丁寧に説明してくれます。それらの工夫点がその後の業務に役立つことが多々あります。それを真似し改良することで、自分の技術力が向上していることを実感できます。

最後になりますが、「調査の匠」認定に際してご尽力をいただいた関係各位に感謝するとともに、今後も現場を第一に考え、自分の技術力を向上させるとともに、これまでの経験を後進に傳承することに精進したいと考えております。

#### ○ 藤川 輝彦氏 （株）東京ソイルリサーチ

この度、「調査の匠」として認定して頂きましたことは大変光栄であり、そして有難いことと感じております。

受賞に際しまして、認定して頂きました協会委員の皆様方に厚く

御礼申し上げますとともに、これまで様々な場面で支えて頂き、ご指導頂いた方々にも感謝致します。

私自身は、今まで大きな業績を上げてきた訳でもなく、与えられた業務をこなしていただけであり、気付けば34年という長い年月が経っていたという感覚でしかありません。ですので、受賞頂いたことは驚きでした。

私の家は祖父の代からボーリングを家業としておりますが、私自身この職業に就く事は考えていませんでした。ただ、家族からの後押しがあり、少しずつではありましたがこの仕事への気持ちが芽吹き、やる気が出てきたというのが始まりでした。仕事を始めてから1年程度は助手として作業していましたが、その頃はバブル好景期ということもあり、仕事量が非常に多く、機械の数を増や



すということもあって、私は若輩ながらもオペレータとして現場作業に従事するようになりました。

これまでこなした現場は海山問わず多種多様で、オールラウンドに従事して参りました。その中で沢山の先輩方や祖父、父などの助言や指導アドバイスをいただき、そして色々な失敗の中から沢山の経験をさせてもらいました。そこから五感が大切だという事を自分なりに学び、「目で見て、音を聞き、手で感じる」これが培って来た私の財産だと思っています。

現在、私は東京ソイルリサーチの社員としてオペレータの人材育成を任されています。今まで培って来た自分自身の財産（五感）を活かし、後輩たちへの技術継承を目指しております。そのような教育者の立場として、私自身が常に心掛けている事があります。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、誉めてやらねば人は動かじ」山本五十六の言葉です。この言葉を胸に今の自分に出来る事を考えるとともに、後継者の育成を実践し、この業界に少しでも貢献出来るよう精進していきます。

#### **4. 令和6年度「調査の匠」募集**

令和6年度の「調査の匠」の募集を、10月より開始しています。応募要領等は協会ホームページ (<https://www.kanto-geo.or.jp/index.html>) に掲載しています。多数の応募をお待ちしております。